

## 定例市長記者会見録

日 時：3月19日(金) 午前11時～11時30分

場 所：本庁舎6階特別会議室

出席者：一宮市 中野市長、福井副市長

報道機関 中日新聞、読売新聞、朝日新聞、中部経済新聞、毎日新聞、NHK

本日の案件は3つです。

1番目は「令和3年4月1日付人事発令」です。今年は昨年より278人増加した1,341人が異動します。まず中核市移行に向けた体制整備で、市職員を30人増員します。このほか愛知県から保健所に18人派遣される予定です。30人の内訳は、市民健康部では保健所業務のために8人増員します。施設としての保健所に配置される60人程度のうち、県からの派遣職員が約3分の1、残りが市の職員ということになりますが、その約半数は愛知県一宮保健所や愛知県庁でしっかり研修を受けてきた者を配置しております。福祉部では、福祉総合相談窓口業務等について13人増員します。環境部では、産業廃棄物対策などのために3人増員します。教育部では、これまで県が行っていた研修業務を市の教育センターが行うことになるため6人増員します。

次に、新しい時代に適した組織の見直しです。スポーツ課、図書館、博物館、教育指定管理課といったスポーツ・文化を担う部門を教育文化部から経済部へ移管し、市の魅力発信や地域の活力向上と経済活性化を目指し、新たに活力創造部とします。また、デジタル社会に対応するための施策を、全庁的に迅速かつ重点的に施策を実施するため、室長を次長級としたデジタル推進室を新設します。そして、国からのワクチン配備がなかなか見通せない状況下で高齢者の方へのクーポン券送付の準備などのための専門の部門を、新型コロナワクチン接種推進室を新設します。最後に、中央看護専門学校と働く婦人の家につきましては、役割分担や状況を踏まえた結果、廃止します。

次に、女性の登用として、次長職に3名の女性職員を総務部デジタル推進室長、福祉部次長、活力創造部次長として配置します。これにより、次長以上職員の女性の人数はこれまでの1名から4名になり、割合は1.5%から5.8%となりました。今後は2桁のパーセンテージも目指していきたいと考えています。

次に、岐阜市との人事交流を開始します。災害復旧や保健所関連などでの職員派遣は以前から実施していましたが、双方向による政策課題の設定や人事交流は初となります。本市からはまちづくり部門を学ばせたいと思っておりますが、それぞれ得るものが多い交流にしたいと考えています。

次に、国の中央省庁への職員派遣につきましては、職員の交代はありますが新しいポストはありません。また、国などから職員派遣の受け入れにつきましても、従来からの大きな変更はありません。

2番目は『「USA バレーボール」と事前キャンプ等に関する覚書を締結』です。覚書締結

式をオンラインで3月24日午前9時30分から行います。時差により、相手方は23日午後6時30分からとなります。受け入れチームはシッティングバレーボールの強豪で、前回のリオパラリンピックでは金メダルを獲得しています。このチームが事前キャンプとして、8月16日から20日まで、総合体育館と木曽川体育館で練習を行います。本市で練習していただき、ぜひ優勝してほしいと願っています。シッティングバレーボールが8月27日から9月5日までの日程で行われた後、本市で選手・スタッフ数名との交流を予定しています。スポーツを介して皆さんが健康的で元気で過ごせるような気運を醸成する上で、ぜひ本市で受け入れできたらという思いで、今回、覚書を締結します。

3番目は、「窓口キャッシュレス決済を拡大」です。4月1日から、これまでの交通系電子マネーでの決済に加え、5つの窓口でクレジットカードや電子マネーやQRコードといったキャッシュレス決済を利用できるようにし、支払をより便利にします。

以上、本日の説明でございます。

#### 質疑応答の概要

##### ■令和3年4月1日付人事発令

(記者) 中核市に向けて30人増員というのは、令和2年度との比較ですか？

(市長) そうです。

(記者) 広域連携について中核市へ移行した市の中には、連携中枢都市圏を構想しているところもありますが、そういったお考えはありますか？

(市長) 重要なテーマだと思います。愛知県では、連携中枢都市圏はまだ行っていません。連携中枢都市圏は、物理的や地理的に隣接している地域ですが、私はもっと広い枠組みで考えた方が良くと思います。そこで今回、岐阜市と人事交流をやらせていただきます。名岐道路のプロジェクトも本格的に進んでおり、一宮市と羽島市を結ぶ(仮称)新濃尾大橋も2020年台半ばに完成予定ですので、愛知県・岐阜県・三重県の中京圏エリアでの広域連携が必要だと思います。

(記者) 岐阜市との人事交流で、特にやりたいことは何ですか。

(市長) 第一歩として、岐阜のまちづくりを学びたいと考え、市職員を派遣します。次に、岐阜も繊維で栄えてきましたので繊維産業です。日本が元気だったころは、アパレルや装いで勢いがあったので、それをうまく新しいまちづくりに活かしていくかを、岐阜市に限らず岐阜県や尾張、尾州の広域で取り組んでいけたらと考えています。

(記者) それは名岐道路のことも意識されてのことですか？

(市長) そうです。それと、木曽川の沿川です。現在、サイクリングロードが犬山から江南、一宮までつながっています。一宮と稲沢も一部つながっていますが、一宮市内のサイクリングロードがぶつ切りになっています。全体をつなげると、42.195キロも目指せます。そこに木曽川の対岸である岐阜県と併せて水辺を魅力的にしていけば、エリアの魅力が磨き上げられると思います。

(記者) 組織改革で活力創造部を新設されます。スポーツ・文化と経済を今まで以上に連携させるということですが、具体的にはどういったことをお考えですか？

(市長) これまでも方向性としては、部の枠を超えて連携をしていましたが、それをより密にしたいということです。ラグビーワールドカップで、南アフリカが光明寺のグラウンドで公開練習をしていただきました。平日にもかかわらず何千人もの方にお越しいただきました。その時に、地域の名産品や特産品を集めて販売していました。これは民と官の役割分担で言えば、民の商工会議所や観光協会、商店街などの協力は必要となりますが、もっと収益化できるチャンスはあると思います。

(記者) スポーツを中心に収益が見込めれば、活力創造部の中で連携を密にしてやっていくということですね。

(市長) そうですね。縦割りの中でも同じ部内であれば、色々なアイデアや情報の流通が密にしやすいので、収益の上がるいい企画が出てくることを期待しています。経済とは「経世済民」ですから、お金を回して皆さまがより豊かに元気になっていくように、スポーツや文化を絡めていけたらよいと思います。

#### ■ 『USA バレーボール』と事前キャンプ等に関する覚書を締結します

(記者) 事後交流は市民も参加できるように調整されているのですか？

(市長) おっしゃるとおりです。できるだけ市民の皆さまが参加できるように、と考えています。障害をお持ちの方で、特に未来に希望を持っていただきたいお子さまが参加できるよう考えていますが、まだ調整中です。

(記者) 事前キャンプは見学できるのですか？

(市長) 考えてはいますが、コロナの感染状況によります。

(記者) USA バレーボールチームとは交流があったのですか、それとも市からオファーしたのですか？

(市長) USA パラリンピックバレーボールチームがキャンプ地を探していると、愛知県から一宮市に声がかかりました。コロナ禍で直接視察ができないため、オンラインで昨年12月から総合体育館や木曾川体育館、宿泊地について、継続して視察や審査をしてもらいました。その結果、先方から一宮市でのキャンプを希望していただき、来週覚書を締結する運びとなりました。

(記者) 今回、USA バレーボールチームと一宮市を仲介した団体等はあるのですか。

(市長) 特にそういった団体はありませんので、これからそういった関係を作っていきたいと考えています。

(記者) 協定を結ばれてから、ホストタウンになるのですか。

(市長) ホストタウン申請も同時並行で進めています。

#### ■ 中学生自死事案に関する審理継続について

(記者) 来月、裁判所から和解案が示されるようですが、その和解案を見て考えることにな

るのでしょうか？

(市長) 民事訴訟は、非常に心苦しく残念ですが互いが対峙しあう形になります。皆さまが少しでも納得できるような方向性が出ることを期待しています。